

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年11月1日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	_____
事業所名	グループホーム たいさんじ
(ユニット名)	一階
記入者(管理者)	_____
氏名	別府 義弘
自己評価作成日	令和元年 10月 1日

<p>地域の人たちとの関わりを大切にし元気に穏やかにみんなと共に暮らすとことです。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 外出支援・・・入居者の身体に応じた外出(買い物で外出する人～玄関先や庭に出て気分転換をする人など個々に応じた外出支援)その結果・・・花見、食事会などの行事の外出はできたが個々に応じた外出は毎日のケアをするのが精一杯で実施できなかった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 周囲を田畑に囲まれた静かな地域にある事業所は、掃除が隔々まで行き届いた居心地のよい空間である。料理上手な職員が調理を始めると、その香りに誘われて自然に利用者がリビングに集ってきていた。職員同士の声の掛け合う様子は活気がある。家族をはじめ往診する医師や歯科医、理学療法士、薬剤師と、日常的に人の出入りが多く、顔なじみの関係が構築できている。</p>
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	意思表示出のできる方が多く声掛けにてどうしたらよいかの把握に努めている。	◎	/	○	居室担当の職員や計画作成担当者が中心になって聞き取りを行い、センター方式のアセスメントシートを用いて把握している。思いを伝えるのが難しい利用者は、表情や仕草を観察して思いをくみ取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	発語の少ない、困難な入居者は表情や仕草を観察してどのように思っているかを職員は考えている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人をよく知る人が面会に来た時に話し合うことはある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	個人の生活記録や申し送りノートに記入している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	行動する前に本人に聞くようにしているが聞かずに対応していることもある。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人はもちろん家族や知人から聞いている。	/	/	○	入居時に利用者や家族からこれまでの生活歴などを聞き取るほか、利用してきたサービス事業所からも情報を得ている。入居後の生活の中で得た新たな情報も加えて更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	手を出しすぎず出来ないことを支援し個別に関わることで心身の安定も図っている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	食卓やリビングで過ごす場所、他者との関係など安心する場所、不安になることを把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	他者と職員の関わり方や本人への関わり方が原因になっていないか観察し把握している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	活動的な方、血圧低めの方、自由に自室で過ごしたい方など把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	ミーティングで話し合っている。	/	/	○	職員がそれぞれに収集した情報を申し送りノートで共有し、毎月のミーティングで検討している。職員の主観となってしまうことに注意し、利用者の立場で考えたらどうかという視点での検討に努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	その場面で勤務の職員で話し合ったり、毎月のミーティングで話し合ったりしている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	検討時に課題もわかる範囲で話し合っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームたいさんじ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	食事、排泄、入浴、睡眠を基本に本人の思いを計画に入れている。	/	/	/	利用者や家族から聞き取った意見や思いをふまえ、毎月のミーティングで必要な支援について話し合った内容を介護計画に盛り込んでいる。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日々の関わりの中で気づきやミーティングでの話し合いの中で意見交換をし内容を介護計画に反映させている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	レベルに合わせ介護計画の見直しや支援内容を考えてできる内容にしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	職員以外の方々との協力体制はほとんどない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画のファイルを職員で確認できるようにしている。	/	/	/	介護計画はファイリングして職員はいつでも確認できるようにしている。計画に沿ったケアが実践できたかは課題ごとに番号を付けてチェックしている。日常生活の様子などは、表情や発言内容を交えながら生活記録に記録し、職員の気づきや工夫なども記録している。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	実践結果は生活記録に記入して日々の支援につなげている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	生活記録にて個々の内容を記録している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	介護計画に基づいた日々の支援、気づきを記録している。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月毎に見直している。	/	/	/	3か月ごとにモニタリングを行い、介護計画を見直している。毎月のミーティングでは全利用者の現状確認を行っている。利用者の状態に変化が生じた場合は、利用者や家族などと話し合い、随時介護計画を見直している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	ミーティングにて現状を確認している。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	見直しをして看取り介護計画への変更などしている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	月1回のミーティングとその日出勤の職員間で開催している。	/	/	/	毎月のミーティングを課題検討の場としており、緊急時には当日の出勤者でその都度話し合いを行っている。話し合いの内容は申し送りノートや連絡ノートで職員に伝達し、参加できなかった職員にも共有している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	発言に対して否定的な意見を出さないようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	多数参加できるよう15時開始とし日や曜日はローテーションの内容で決めている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	ミーティングノートを作成し内容を確認できるようにしている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りノートを作成し伝える内容を記入する。業務前に確認する仕組みにしている。	/	/	/	家族の要望などのやり取りを含め、全職員で共有したい情報は、口頭や申し送りノートや連絡ノートで情報伝達を行い、確認後にはチェックを入れている。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	朝夕の申し送り、申し送りノートの確認、日中口頭での伝達を行っている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	「食器拭き」「外へ出る」など一つでも叶えられるよう対応している。	/	/	/	着替えを選ぶことや、献立づくりの協力など、日常生活の中の場面ごとに利用者が自分で選べるようにしている。日頃の関わりや、アセスメントで掘んだ利用者の好みなどを活かして生き活きとした言動を引き出せるように声かけや雰囲気づくりに努めているが、職員により対応には差があると感じているため、今後の工夫した取組みを期待したい。	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴時、洋服を選んでもらったり食事のメニュー作りなどに参加されている。	/	/	○		
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人に聞こえる声量で内容がわかりやすい短文で声掛けし対応をしている。	/	/	/		
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	本人のペース優先を心がけているがケアが混みあう時間や職員の都合で対応している時がある。	/	/	/		
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	△	明るく笑顔で対応しているがそうでない時もある。	/	/	△		
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	目の表情、顔の筋力の動きやしぐさなど反応を観察している。	/	/	/		
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	声掛けと態度には気を使っているが時に荒くなる時がある。	/	○	◎	△	人権や尊重について学びの時間を設けているが、利用者に対する言葉遣いに疑問を感じている。難聴の利用者も多く、つい誘導などの声が大きくなりがちだが、利用者のプライドを傷つけないよう充分に配慮がして欲しい。居室の出入りも、ノックと同時に入室してしまうなどの反省点があり、定期的な学びを行動するように努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	耳が聞こえにくい方が多く、大きな声での対応となってしまうている。	/	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	△	トイレの戸の閉め忘れや見守りのため隙間をあけているので配慮に欠けている。	/	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	△	居室は本人専用の場所、プライバシーの場所である理解が薄くなっている。	/	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報保護について理解し厳守している。	/	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	一緒に家事を行うなど相互の関係を作っている。	/	/	/	他者口撃といった不穏な空気が流れたが、職員がさりげなく話題をそらして対応していた。その時々との関係性を大切にしつつ、状況によっては配席を変えるなどして対応している。	
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	互いを心配するなど隣り近所の関係が大事なことを理解している。	/	/	/		
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	敵視している、気が合う、時に仲が悪くなるなどさまざまな関係を把握しケンカになりながらも笑って過ごせるよう対応している。	/	/	/		
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	仲裁に入り説明をしたり距離を保つなど対応している。	/	/	/		

愛媛県グループホームたいさんじ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	兄弟、姉妹、子供、友人など全てではないが把握している。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	地域との関係や馴染みの場所などおおまかに把握している。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	ほとんどの人が出かけたり、会いに行くことはしていない。				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	自室やリビング、食卓でゆっくり話し過ごせるようにしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	一日中ホームの中で過ごす事が多い。通院やホーム内のケアに追われている。	○	×	△	日常の散歩や外出行事ともにその機会が少ないが課題であるが、毎年恒例となっている花見や外食会は家族と共に楽しい時間を過ごしている。重度の利用者も含め、その日の希望によってどの利用者も戸外に気軽に出かけられるよう支援を検討して欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	ボランティアや地域の協力は得られていない。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	車椅子に座れる方は庭やポーチで過ごす事もある。			△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族の協力が得られる方は行きたい場所へ出かけている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	症状について理解しており原因をさぐりながらケアを行っている。				私ができること、できないことシートを活用してアセスメントを実施した上で、歯磨きや更衣などの生活動作を積極的に行っている。車いすや歩行器を使用する利用者もリビング内を自由に行き来し、自分でできることを継続してもらう様子が確認できた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日中は起きて過ごす、車椅子の自走の声掛け、歩行器、自力歩行時の付き添いなど生活動作が続けられるよう対応している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	日常生活動作など本人ができることは見守り、家事手伝いなどできることはしてもらっている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	男性はあまり出番がない。女性の方は食事の後片付けや洗濯たみなど役割を持っている。				家事に関することが役割や出番となりやすく、男性利用者の出番づくりが難しいと感じているが、色々な作業を共にしながら反応を確認する中で、得意なことの見出しに努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	利用者同士の競い合いなど「やれる」気持ちを引き出すように取り組んでいる。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域での取り組みは支援できていない。				

愛媛県グループホームたいさんじ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	好みの洋服や髪形、化粧など一人ひとりの身だしなみについて把握している。				日中はきちんと更衣をして季節に応じた身支度を整えている。スカートを好む利用者が、軽快なおしゃれを楽しんでいる姿からは、生活歴や意向を大切にしている様子が窺える。職員は利用者との会話を楽しみながらさりげなく服の乱れを直す様子が見られた。終日居室で過ごす時間が長い重度利用者も、好みの髪型に整え、家族に協力してもらって、身だしなみが整うように支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	経済的な部分もあるが家族、職員が協力しておしゃれを支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	今までの好みと所持している物から考え支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	「これでええ」と言う方、服装を気にかける方、それぞれに合わせて対応している。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりしげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	△	目や口のまわり、食べこぼしにより衣類の汚れに対応できていない事がある。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	理美容に行くことが難しいので訪問理美容を利用している。ほとんどの人が楽しみにしている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人の好みを把握し、よく似合う状態に支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	考える、つくる、食べる、片付けるの楽しさや役割の大切さを理解している。				それぞれのユニットで利用者と共に献立を考えて、職員が買い物に行き、手作りの食事を楽しんでいる。下ごしらえや片付けは、利用者と一緒にやっている。入居時に利用者の好みやアレルギーの有無を把握した上で、季節のものや、慣れ親しんだ食材を取り入れている。食器類は使い慣れたものや、状態に応じて食べやすい軽素材の食器などを工夫して使用している。職員も三食共に利用者と一緒に食べており、交代しながら食事介助を行っている。食べるペースは利用者によって様々であるが、ゆっくり食べる利用者が気兼ねないように声かけする配慮が見られた。居室で過ごす重度の利用者も、その時間を共に過ごすように、香りや雰囲気を感じられるようにドアを開放したり、声をかけたりしていた。調理方法や提供形態、栄養バランスなどについて、職員同士で話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	一緒に「買い物には行けないが献立づくりや後片付けには入居者にも参加してもらっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	調理の下ごしらえや後片付けを行うことで入居者の力の発揮、自信、達成感につながっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	全ての入居者の把握につながるよう日々の会話の中で情報を得ている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	彼岸、お盆、七夕、正月、秋祭り、の行事や旬の物(旬、スイカ)おからなど取り入れている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの身体機能を把握しミキサー食やキザミ食も提供している。おいしそうな盛り付けの工夫もしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等を使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	手、腕の力が低下したり、震えてたりするため軽い物や割り箸、スプーンを使っている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	○	三食共に一緒に食事をし、ゆっくり安全に食事できるよう見守り、声掛けをしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	リビングの横が食卓、台所になっている。居室の戸を開けておけば会話、音が聞こえ臭いも感じられる。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事量、水分量をチェックし記録に残し不足していれば時間外にも確保できるよう配慮している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	おやつ時や時間外にも水分補給や高カロリー飲み物等提供している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	献立表を作り魚、肉、野菜、油ものなどバランスよく提供できるよう確認している。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	賞味期限は守り、手洗いはこまめにする、刺身、生ものは出さない。用具のハイター消毒を行っている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食後の口腔ケアの重要性を理解しつつ残渣物の除去、口腔内の清潔を保つため毎食後歯磨きを促してできない入居者には職員が介助している。				セルフケアできる利用者の口腔内の健康チェックに漏れが生じているため、利用者からの訴えだけでなく全ての利用者の口腔内チェックを行って欲しい。毎食後の歯みがきは利用者ができることは自分でしてもらい、できないことを介助している。異常時は訪問歯科診療を受診している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔ケアができる入居者の口の中をチェックすることが少なく訴え時のみ対応しているので訴えやすい環境づくりを心掛けている。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科診療時に口腔ケアに対してのアドバイスをいただいている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	自分が行えている入居者は本人が行い介助が必要な入居者には職員が支援している。ポリドントの使用もある。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	毎食後の歯磨き、ポリドントの使用、痛みなどの訴え時は訪問歯科診療で対応している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	訪問歯科診療を受けられるよう医療機関と連携が図れている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	トイレでの排泄可能な入居者にはトイレ介助を行い個々の状態に合わせて紙パンツ、パット等使い分けている。				排泄チェックを行い、トイレでの自然排泄を基本として支援している。精神的な不安から紙パンツやおむつを使用している場合もあるが、排泄用品の適切な使用を目指し、時間帯や状態に合わせて使い分けをしながら支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	運動不足、水分不足、食事量の低下により便秘になることもありチェック表にて把握し個々の状態によりかかりつけ医に便秘薬の処方してもらっている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	チェック表を活用し把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	オムツやパット使用を少なくしトイレで排泄できるように支援している。		◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	入居者の状態により職員間で話し合いを行っている。医師にも相談している。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄チェック表を参考にし早めの声掛けや誘導で失敗を最小限におさえている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	排泄チェック表を参考にし時間帯によって紙オムツ、紙パンツ、パットを使い分けている。家族とも話し合い同意を得ている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	布パンツ、パットやオムツ類を入居者の状態にあわせて使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	ほとんど薬に頼っている。排便の量、状態によって薬を中止している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	入浴チェック表にて入居者全員が3日おきに入浴でき時間帯や長さにも配慮しているが時には職員の都合によることもある。		◎	△	概ね3日ごとを目安に入浴している。時間帯や長さ、希望の時間帯など、なるべく利用者の希望に配慮しているものの、職員の都合による場合もある。入浴回数や時間帯、利用者の希望や習慣を改めてアセスメントし、入浴が楽しみになる支援を検討して欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	浴槽に入れる入居者にはゆっくり入ってもらいシャワー浴の入居者には本人の希望にあわせシャワーの時間を調整している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	個々にあわせシャワー浴、全身入浴を介助し浴室の環境づくりにより安全に実施できている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	拒む人は日や時間を変えて入れる時に入ってもらいように支援している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前にはバイタルチェックを行い入浴後の状態も観察している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	生活日誌により把握できている。夜勤者が細かく記入している。				夜眠れるように日中の過ごし方に配慮しているが、概ね半数の利用者が医師と相談しながら服薬している。利用者の睡眠パターンを把握し、生活リズムを整えて、できるだけ薬剤に頼らない支援を期待したい。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中車椅子で眠っている入居者には好きなテレビ番組をみてもらったり手伝えることをお願いしてなるべく起きて時間を多くとっている。				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	どうしても夜間不眠れない入居者には医師と相談しながら薬剤を使用することで安眠が図れるように支援している。日中の過ごし方にも配慮している。昼夜逆転のないよう寄り添っている。			△	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	各居室やリビングのソファの活用がいつでもできるよう配慮している。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話や手紙が活用できるように準備しているが特に要望はない。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	家族から電話がかかったときには話す手助けをしたり通訳をしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	本人の希望時職員がかけ本人と家族で話してもらっている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙や葉書は本人の目の届く場所に置きいつでも思い出し連絡がとりたいとの希望時には対応できるようにしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人の精神安定にもつながることを理解してもらっている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	生活する上でお金の必要性、社会とのつながりがあることを理解している。				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	病院受診時に家族と買い物されることがある。				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物に外出されることはあまりないので買い物先の理解や協力は得られていない。				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	希望がないこともあるが入居者同士のトラブルを防ぐためにも本人は所持していない。家族も事業所預かりを希望される。				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	理解できる方には説明を行っている。				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	重要事項で説明し出納帳の作成、記入し毎月複写を家族へ手渡している。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々々の状況に応じ家族が支援を求める場合、事業所としてできる限り柔軟な対応ができる体制でいる。	◎	○	医療機関の受診同行をはじめとした利用者や家族からの要望に応えられるよう柔軟に対応している。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	周辺に花や木を植え、玄関ポーチには椅子を置き気軽に出入りできるようにしている。	◎	◎	◎	玄関まわりには花や木が植えられ、ゆったりと開放的で入りやすい雰囲気である。ほっと一息ついて体をやすめたり。靴の脱着がしやすいようにイスを置く配慮もある。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	リビングにはソファを置きいつでも過ごす事ができる。畳の場所で入居者が横になることもある。季節の花を飾ったり金魚を飼って心の癒しにもつなげている。	○	◎	○	共用空間に一歩足を踏み入れれば、暖かな調理の香りや、リビングに集う利用者の声が聞こえる。リビングには畳のスペースもあり、時には行事の舞台ともなる。不快な臭気もなく、清掃が行き届いている。季節を実感できるように作成した貼り絵や金魚を愛でたりしながら居心地よく過ごせるよう、環境に配慮している。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	日々の入居者の状態によってはケアに追われ掃除が行き届かない場所もある。	△	△	△	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	行事食で刺激を受けたりテレビからの情報も取り入れ居心地良く過ごせるよう配慮している。	△	△	△	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビングで一緒にテレビをみたり会話を楽しむ空間がある。独りになれる場所(居室)も自由に出入りできる。	△	△	△	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	廊下の途中にトイレと浴室があり共用空間からはみえないようにしている。	△	△	△	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	使い慣れた家具やボックスを希望される入居者には自宅から持ってきてもらい居心地の良さが継続できるようにしている。	◎	◎	◎	使い慣れたものや、好みの家具を自由に持ち込んでもらい、利用者はそれぞれに居心地よく過ごしている様子が伺えた。長年の職業経験を物語る書画を再現した居室もある。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	個々のアセスメントと日々の生活の中で状態を把握してできるだけ自分でしてもらうことを旨とし混乱しないように声掛けと見守りを行っている。	△	△	○	居室の出入口には、間違えないように表札や名前のプレートをかけており、トイレや浴室など共有の場所を認識しやすいように大きな字で表示している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	入居者が不安や混乱、失敗を招くようなものは置かず認識違いを未然に防ぐようにしている。	△	△	△	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	雑誌、急須、ポットなど生活上にあるものは目の見えるところに置いてある。	△	△	△	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	自由に入出入りできる環境でいたい入居者には付き添い心理的不安や閉塞感を取り除き精神面の安定も図っている。居場所の確認を常に行っている。	◎	◎	◎	代表者及びすべての職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関やユニット出入口は施錠していない。センサーでチャイムが鳴るため、職員がお互いに気を付け合って、利用者を見守っている。他ユニットへの散歩が日課の利用者が、気軽に「おじゃまします」と入室している様子が見られた。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時家族に説明し理解を得ている。	△	△	△	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関には鍵をかけず自由に入出入りできるようにしており入居者が出るとチャイムが鳴るように工夫している。外出傾向の入居者の動きを常に把握するようにしている。	△	△	△	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居時個々のアセスメントで状態を把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	入居時個々のアセスメントに加え日々の生活の中で異常があればすぐ対応できるよう見守りの強化に努め生活日誌に記録し職員間で共有している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	かかりつけ医や協力機関と連携を図り看護師も常駐している。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居時本人、家族の希望を聞き家族対応での受診と家族の都合がつかない時は事業所が対応している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	定期的、異常時にはかかりつけ医に受診し事業所とかかりつけ医との関係性ができている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院は基本的に家族対応だが家族不在の場合は職員が対応し受診結果を家族に連絡し家族対応の場合は家族から報告してもらい情報の共有をしている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	事業所での入居者の情報を病院の担当者に提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入退院時には担当者と情報を共有し相談できるよう努めている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日頃受診している病院は入院設備が有る所が少なく入院ができる病院とは電話等で関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	事業所に看護師が常駐しており情報や気づきを共有している。かかりつけ医や協力機関の協力も得られている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護師とは24時間連絡がとれ母体のDrともいつでも連絡がとれる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	個々の訪問診療により状態変化に応じた支援が適切に行われている。早期発見治療につなげている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	定期的、一時的に処方されている内容を把握している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	その日の薬を薬箱にセットし(2名で確認)服薬する前の確認を行い予防対策に取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	副作用についての認識と心身の安定につながっているかを生活日誌とチェック表にて確認している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	生活日誌、チェック表にて把握した状態の経過や変化を家族や医師、看護師と共有している。				

愛媛県グループホームたいさんじ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時に最期をどうしたいか家族へ意向を確認している。	/	/	/	利用者や家族からの要望も強く、看取り支援に積極的に取り組んでいる。看護師資格を有する職員もおり、看取り経験を重ねたベテラン職員もいて安心感が持てる。事業所だけでなく、家族と医療機関、関係者がしっかり情報を共有して、連携しながら利用者の終末期の支援を行っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	全員が一度に話し合うことはないが、どのようなケア対応をするか職員、医師、家族で共有している。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	命に関わる職員の気持ちや介護負担を考え安全にケアできるようにしている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	病院ではない事、治療ではなくケアである事など説明している。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	口から食べれなくなった時、呼吸が苦しくなった時など最期へ向かって本人が支度をしている時間を少しでも穏やかに過ごせるよう検討している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時や電話で心情の理解を示し家族間の事情や精神面での支えに配慮している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	マニュアルの活用、勉強会への参加で対策について学ぶことができる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	日頃からの訓練は行っていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	特には行っていない。母体の病院より情報の連絡がある。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	新聞やマスコミ、自治体からの通達で随時対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	手洗いやうがいの徹底、入居者、来訪者についても手の消毒液を使用できるようセットしている。毎食時手指消毒も行っている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	ホームだけでは本人の生活を支えきれない事を説明し協力関係を築いている。					
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	来やすい雰囲気づくりや対応で家族は気軽に訪れてもらっている。					
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	外食、家族会への参加の呼びかけを行っている。			○	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	来訪する機会が少ない家族には電話にて近況報告又状態に変化がある時はその都度行うようにしている。			○	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	家族が知りたい事や不安に思っている事がいつでも聞けるような信頼関係が築けるように努めている。					
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	個々に親子や兄弟姉妹の関係があるので意向に沿うような働きかけをしている。					
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	職員の異動や退職等は報告していない。			×	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	機会は少ないが家族会、食事会を行っている。					
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	食事摂取状況や認知症の進行度による行動の変化等によるリスクの説明、対応方法を説明している。					
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	電話や来訪時近況報告を行い気軽に相談できる関係が築けている。				○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	利用申し込み時、十分な説明をし理解を得ている。随時状況に応じて話す機会を作っている。					
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	ここ数年は最期をグループホームで迎え退居された方のみであるが他施設の情報提供や退居先への情報提供を行っている。					
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	入居者、家族が納得できるよう詳しく説明を行い、同意書にサインを頂いている。その後も信頼関係が継続できるように努めている。					

外食会や、季節の行事など、家族が気兼ねなく参加できる機会を作っている。来訪する機会が少ない家族には、近況連絡を電話で行い、利用者の暮らしぶりを伝えている。運営上の事柄は運営推進会議で報告しているが、職員の異動については報告をしていない。利用者や家族にとって職員との関わりは重要なことであるため、異動時の伝え方も検討して欲しい。家族が気がかりなことを相談しやすいように、来訪時には職員から積極的に声をかけ、定期的な電話連絡も行っている。

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	地域の人との関わりが少なく話し合いなどは行っていない。	/	◎	/	公民館活動が熱心な地域であり、公民館長から地域行事のお誘いを受けている。以前は数名の利用者が参加していたが、最近では重度化や高齢化のため公民館2階にある会場まで足を運べなくなり、現在はほとんど参加できていない。近隣の畑で収穫した野菜を差し入れてくれる地域住民もいるが、利用者が地域と関わりが持てず課題に感じている。今後は利用者のみならず、職員も含めて無理のない範囲からでも地域行事などに参加し、地域住民との関係を深め深めていくことが望ましい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	機会は少ないが挨拶をしている。地域活動や行事への参加はできていない。	/	×	×	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	支援してくれる地域の人たちは増えていない。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	あまり地域の人たちが来たりしない。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	挨拶をする程度の付き合いしかしていない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	特に働きかけはしていない。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	まだまだ地域資源との協働が少なく今後充実できるとよい。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	運営推進会議で地区住民の方にも事業所で協力できることを話し、お互い情報交換を行っている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	運営推進会議のメンバーには地域の民生委員、公民館長、地域包括支援センター職員、入居者の参加がある。	×	/	×	運営推進会議に家族の参加がないため、参加してもらうように日程調整など工夫していくことが望まれる。会議では、利用者やサービスの状況、評価の取り組み状況を報告している。事業所は、参加者と意見交換できる貴重な場と感じている一方で、地域住民の理解が進んでいないとも感じているため、事業所や認知症ケア、利用者の生活について理解を深めてもらうための工夫を重ねて欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	運営推進会議開催時に報告を行っている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	意見交換を行い良好な関係が築けている。次回開催時に結果の報告も行っている。	/	×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	参加メンバーの出席しやすい日程や時間帯に配慮している。	/	/	○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	事業所内に掲示し誰もがみれるようにしている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	地域と関わり、元気で穏やかに暮らせるよう体調管理を行い人間関係を構築している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	食べて喋って笑ってケンカして普通の事を大事にしていることを伝えている。	○	x	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	法人内外の研修に参加しやすいように勤務の調整をしている。	/	/	/	代表者は職員が勉強会や研修に参加する機会を提供して、働きながら学べる環境を整備をしている。代表者はほぼ毎日事業所に立ち寄り、職員と職場の状況を把握して働きやすい環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月テーマを替え勉強会を行っている。法人内外の研修も推進されている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	賞与、処遇改善手当支給や怪我や病気による休養の取得にも幅広く対応できている。有給休暇も取得できている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	外部研修による同業者との交流が図れている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレスを軽減するため話しやすい環境づくりに努めている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会で学び日々の業務の中で注意を払い虐待のない事業所づくりを実施している。	/	/	/	虐待や不適切なケアについて勉強会で学んでいるが、利用者に対する言葉遣いに少し問題を感じる職員もいるため、管理者は課題に感じている。不適切なケアを発見した時の手順などは、職員全員が認識し業務に励んでいる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティングで個々の入居者の対するケアについて話し合うことができている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待の発見、注意、改善、通報など手順は知っている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	入居者へのケアを通して職員の疲労やストレスに気付くよう努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修会、勉強会を通して正しく理解しケアに取り組んでいる。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	勉強会とミーティングで入居者の現状把握に努め話し合いの場を設けている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束を行わない取り組み、対応方法など度々説明を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	個々の研修に任せており理解していない職員もいる。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	○	相談はない。相談時は情報提供行う。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	包括支援センターと連絡体制を築いている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応マニュアルを作成し職員に周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	個々の研修に任せており定期的にはできていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故、ヒヤリハット事例の検討を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	転倒や外傷、のどつめなど個々のリスクを把握し事故防止に取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルは作成しているが対応方法の検討は行っていない。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情は寄せられた場合は事務長へ報告、検討している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情に対して速やかに回答し話し合いを設けて、より良い関係づくりをしている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	入居者の意見、苦情など日々話を聞く機会を作っている。			○	利用者からは、日常生活の会話の中で要望を聞いている。家族からは、来訪時や電話連絡で要望を伺い、言いにくいことも話してくれていると感じている。法人の方針により居室にはテレビを置かないことになっているが、置かせてほしいという家族の意見があり、今後の検討課題となっている。管理者は職員とコミュニケーションを積極的に取っており、職員は気軽に相談できると感じている。管理者は職員と業務を共にしながら、利用者本位の支援について検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族会や面会、電話連絡時など個々に聞く機会を設けている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	入居時以外は行っていない。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	必要時には現場に足を運び職員の意見を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ミーティングや個人間でのコミュニケーションの中で意見を聞いている。			○	

愛媛県グループホームたいさんじ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	定期的に自己評価に取り組んでいる。				運営推進会議に参加する家族が少なく、地域住民もサービス評価についての理解が進んでないと思われるため、サービス評価について理解が得られるように説明が必要である。また、評価を踏まえて継続したモニターとしての役割が発揮できるよう、今後の取組みに期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	毎日のケアを見直す機会にしている。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	あまり活かしきれていない。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族会や運営推進会議で報告している。	×	△	×	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	事業所内での取り組みの成果を確認している。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルを作成しフロア内に掲示している。				事業所周辺地域は水害を一番警戒しているが、地域住民と連携した合同訓練は行えておらず、家族の災害に対する不安もあるため、合同訓練の開催や関係機関や近隣住民と話し合いの機会を持つことで協力・支援体制を確保して欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中、夜間帯想定した訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	△	非常用災害用品の点検ができていない。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	事業所内の訓練はしているが地域での合同訓練は参加していない。	△	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域と連携した災害対策は行っていない。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	情報発信、啓発活動は行っていない。				これまで地域住民への相談支援の経験はなく、地域活動も行えていない。公民館からの依頼で事業所で行っているレクリエーションを地域の高齢者を対象に行う予定であるため、今後少しずつ地域との距離を縮めていくことに期待したい。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	相談支援は行っていない。		×	×	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	事業所は解放していない。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	実習の受け入れはない。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域活動の協働はしていない。			△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和元年11月1日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 15名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	_____
事業所名	グループホーム たいさんじ
(ユニット名)	二階
記入者(管理者)	_____
氏名	平岡 明美
自己評価作成日	令和元年 10月 1日

<p>【事業所理念】 地域の人たちとの関わりを大切にし元気に穏やかにみんなと共に暮らすところです。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 外出支援・・・入居者の身体に応じた外出(買い物などで外出する人～玄関先や庭に出て気分転換をする人など個々に応じ た対応)その結果・・・花見、ドライブなど数回外出はしたが個々の外出支援は思うようにできなかった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 周囲を田畑に囲まれた静かな地域にある事業所は、掃除が隔々まで行き届いた居心地のよい空間である。料理上手な職員が調理を始めると、その香りに誘われて自然に利用者がリビングに集ってきていた。職員同士の声の掛け合う様子は活気がある。家族をはじめ往診する医師や歯科医、理学療法士、薬剤師と、日常的に人の出入りが多く、顔なじみの関係が構築できている。</p>
---	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人の思いや希望、意向の把握に努めている。	◎	/	○	居室担当の職員や計画作成担当者が中心になって聞き取りを行い、センター方式のアセスメントシートを用いて把握している。思いを伝えるのが難しい利用者は、表情や仕草を観察して思いをくみ取るよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	表現の難しい方は言葉や表等行動を観察し把握に努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時や電話で家族に状況を報告し本人の思いについて話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	一人ひとりの生活記録に記入し変化があれば申し送りノートに記入する。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	本人の言葉や情報、行動からどうしたいのか思いを確認している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族や本人を良く知る人から情報を聞いている。	/	/	○	入居時に利用者や家族からこれまでの生活歴などを聞き取るほか、利用してきたサービス事業所からも情報を得ている。入居後の生活の中で得た新たな情報も加えて更新している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	本人の言葉や表情、行動から理解し現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	場所や場面、時間帯等から本人の状況を確認し把握できるようにしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	一人ひとりの日常生活の状況が把握できるように努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	一人ひとりの生活状況や過ごし方を見て変化や違いを把握できるようにしている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人が必要としている事をミーティングで話し合っている。	/	/	○	職員がそれぞれに収集した情報を申し送りノートで共有し、毎月のミーティングで検討している。職員の主観となってしまうことに注意し、利用者の立場で考えたらどうかという視点での検討に努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人の変化や行動を記録してミーティングで話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人の状態を把握してより良く暮らしていけるようにミーティングで話し合っている。	/	/	/	

愛媛県グループホームたいさんじ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の思いや意向を聞き介護計画を作成している。				利用者や家族から聞き取った意見や思いをふまえ、毎月のミーティングで必要な支援について話し合った内容を介護計画に盛り込んでいる。	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人と家族に希望を聞き現状に沿った介護計画を作成している。	◎		○		
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	使い慣れた物や見慣れた物を居室に置いている。また他利用者や職員と過ごす時間を作っている。					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の協力が有り病院受診時には一緒に外出している。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	一人ひとりの介護計画を把握して理解し職員間で共有している。介護計画の内容はいつでも確認できるようにしている。				介護計画はファイリングして職員はいつでも確認できるようにしている。計画に沿ったケアが実践できたかは課題ごとに番号を付けてチェックしている。日常生活の様子などは、表情や発言内容を交えながら生活記録に記録し、職員の気づきや工夫なども記録している。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	生活記録に合った出来事を記録し毎日の申し送り時に状況を共有している。日々の支援につなげている。					○
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	一人ひとりの日々の暮らしの変化や言葉、行動を生活記録に記入している。					○
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	一人ひとりの状況やその時の対応を具体的に生活記録に記入している。					○
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3ヶ月に1回見直しをしている。				3か月ごとにモニタリングを行い、介護計画を見直している。毎月のミーティングでは全利用者の現状確認を行っている。利用者の状態に変化が生じた場合は、利用者や家族などと話し合い、随時介護計画を見直している。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月のミーティングで状況確認をしている。					○
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	本人の状態に変化が生じた場合は医師の指示により家族と話し合い官憲者と計画を見直し新たな介護計画を作成している。					○
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月ミーティングで話し合っている。緊急案件がある場合はその都度話し合っている。				毎月のミーティングを課題検討の場としており、緊急時には当日の出勤者でその都度話し合いを行っている。話し合いの内容は申し送りノートや連絡ノートで職員に伝達し、参加できなかった職員にも共有している。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	出席者がそれぞれ発言でき意見交換がするようにしている。					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	集まりやすい勤務先で可能な限り多くの職員が参加できるように時間等工夫している。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	ミーティングノートに記録していつでも確認できるようにしている。					○
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	申し送りの時に情報を伝えている。申し送りノートにも記入し情報を共有している。				家族の要望などのやり取りを含め、全職員で共有したい情報は、口頭や申し送りノートや連絡ノートで情報伝達を行い、確認後にはチェックを入れている。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	重要な情報は申し送りノートに記入している。また口頭でも伝えている。	◎				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の状況や状態を把握してできるだけ叶えられるように努力している。	/	/	/	着替えを選ぶことや、献立づくりの協力など、日常生活の中の場面ごとに利用者が自分で選べるようにしている。日頃の関わりや、アセスメントで掘んだ利用者の好みなどを活かして生き生きとした言動を引き出せるように声かけや雰囲気づくりに努めているが、職員により対応には差があると感じているため、今後の工夫した取組みを期待したい。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	着たい服や食べたいものを本人が選べるような場面を作っている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	本人に話を聞き思いやしたいことを把握できるように努めている。わかる力に合わせた支援をしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	希望に沿えない事もあり職員の都合になっている時もある。	/	/	/	
		e	利用者の生き生きとした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	本人の状況を把握して分かりやすい言葉で声掛けをしている。	/	/	△	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	言葉や表情、行動を観察しながら、本人の意向にそった暮らしができるように努力している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	本人がいやだと思っている事は口にしないようにして態度にも出ないように心掛け意識している。	○	◎	△	人権や尊重について学びの時間を設けているが、利用者に対する言葉遣いに疑問を感じている。難聴の利用者も多く、つい誘導などの声が大きくなりがちだが、利用者のプライドを傷つけないよう充分に配慮がして欲しい。居室の出入りも、ノックと同時に入室してしまうなどの反省点があり、定期的な学びを行動するように努めて欲しい。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	一人ひとりに合わせた声掛けをしているが聞こえにくい方が多く大きな声での対応となっている。	/	/	△	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	利用者との職員の一対一でトイレや入浴を行っている。プライバシーに配慮しながら行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	ノックや声掛けをして出入りしている。	/	/	△	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	利用者のプライバシーや個人情報等について理解し外部者に伝わらないように配慮している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	一緒に食事の片づけや洗濯をしている。	/	/	/	他者口撃といった不穏な空気が流れたが、職員がさりげなく話題をそらして対応していた。その時々との関係性を大切にしつつ、状況によっては配席を変えるなどして対応している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士の相性や個々の生活状況の把握に努めている。またトラブルが起きないようにしている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士一緒に食事をして同じ空間で過ごす時間がある。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	話しを変えたり席を移動して利用者に不安や支障がないようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームたいさんじ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人や家族に話を聞き本人を取り巻く人間関係について把握に努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人や家族に話を聞き地域との関係や馴染みの場所等の把握に努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	本人から出かけて行く事はできないが知人や友人が面会に来てくれている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	いつでも面会できるようにしている。本人の部屋やリビング、食卓で過ごせるようにしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	買い物や病院受診等家族と外出している。定期的病院受診時には家族や職員が付き添っている。	○	×	△	日常の散歩や外出行事ともにその機会が少ないが課題であるが、毎年恒例となっている花見や外食会は家族と共に楽しい時間を過ごしている。重度の利用者も含め、その日の希望によってどの利用者も戸外に気軽に出かけられるよう支援を検討して欲しい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	毎日ではないが本人の体調や状況を見ながらドライブに出かけている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	本人の状態に応じて居室で過ごしている。心地よく過ごせるように環境を整えている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	利用者全員ではないが家族の協力を得て本人の行きたい場所へ出かけている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	一人ひとりの状態の変化に早く気づき対応できるようにしている。	/	/	/	私ができること、できないことシートを活用してアセスメントを実施した上で、歯磨きや更衣などの生活動作を積極的に行っている。車いすや歩行器を使用する利用者もリビング内を自由に行き来し、自分でできることを継続してもらう様子が確認できた。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で本人が出来る事を行い自然に維持できるように支援している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	「できること、できそうなこと」については状況により見守り職員と一緒にしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	日常生活の中で本人の楽しみやできる事を把握してできる場面を作っている。	/	/	/	家事に関することが役割や出番となりやすく、男性利用者の出番づくりが難しいと感じているが、色々な作業を共にしながら反応を確認する中で、得意なことの見聞に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	家事のできることを一緒にしている。時代劇など好きな方はテレビやビデオを見ている。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	外出する機会が少なく参加できていない。	/	/	/	

愛媛県グループホームたいさんじ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	衣類等本人の個性を大切に本人の身だしなみやおしゃれを把握している。				日中はきちんと更衣をして季節に応じた身支度を整えている。スカートをお好む利用者が、軽快なおしゃれを楽しんでいる姿からは、生活歴や意向を大切にしている様子が窺える。職員は利用者との会話を楽しみながらさりげなく服の乱れを直す様子が見られた。終日居室で過ごす時間が長い重度利用者も、好みの髪型に整え、家族に協力してもらって、身だしなみが整うように支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	◎	一人ひとりの個性や希望を把握し髪型や服装等を本人の好みに整えられるように支援している。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	自己決定がしにくい利用者には職員がアドバイスをして本人の気持ちに沿って支援している。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出をする時には行き先により服装の確認を本人と家族にしている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にささりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	他者に気づかれないようにさりげなく支援している。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	二ヶ月に一回訪問理美容を利用している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人らしさが保てるように支援している。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者に調理の音や臭い等を感じてもらい作る事、食べる事の楽しみの大切さを理解している。				それぞれのユニットで利用者と共に献立を考えて、職員が買い物に行き、手作りの食事を楽しんでいる。下ごしらえや片付けは、利用者と一緒にやっている。入居時に利用者の好みやアレルギーの有無を把握した上で、季節のものや、慣れ親しんだ食材を取り入れている。食器類は使い慣れたものや、状態に応じて食べやすい軽素材の食器などを工夫して使用している。職員も三食共に利用者と一緒に食べており、交代しながら食事介助を行っている。食べるペースは利用者によって様々であるが、ゆっくり食べる利用者が気兼ねないように声かけする配慮が見られた。居室で過ごす重度の利用者も、その時間を共に過ごすように、香りや雰囲気を感じられるようにドアを開放したり、声をかけたりしていた。調理方法や提供形態、栄養バランスなどについて、職員同士で話し合っている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者に食べたいものを聞きメニューに取り入れて献立をたてている。片付け等できる方と一緒にやっている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食事の片づけを自らい行い食器を洗い自信や達成感につなげている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	一人ひとりの好きな物や嫌いな物、アレルギーを把握している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の食材や昔よく食べていたものなど食事にとりいれている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人ひとりの状態に合わせ本人に合わせた形態にしている。ミキサー食やトロミが必要な方にはトロミ剤を使っている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人が使いたくない物や本人の力に合わせた物を使っている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	◎	職員も利用者と同じものを一緒に食べている。一人で食べられない方や食べこぼしや誤嚥の恐れがある方の横に座りサポートしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	調理をしている音や臭いを感じられる雰囲気がある。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	食事や水分摂取量をチェックして一日の摂取量に分かるようにしている。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取量の少ない方には食間に本人の好きな物や食べられるものを出している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	肉や魚、野菜のバランスを考えて献立をたてている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	調理を担当する職員は手洗いを十分に行い食材が傷んでいないかチェックをしている。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食後口腔ケアを行い口の中に残っていないか確認をしている。職員は口腔ケアの必要性、重要性を理解している。				セルフケアできる利用者の口腔内の健康チェックに漏れが生じているため、利用者からの訴えだけでなく全ての利用者の口腔内チェックを行って欲しい。毎食後の歯みがきは利用者ができることは自分でしてもらい、できないことを介助している。異常時は訪問歯科診療を受診している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	本人の訴えや口腔ケア等で口の中の健康状態を把握している。			△	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科医や歯科衛生士から口腔ケアの方法を聞き実践に活かしている。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	自ら毎食後義歯洗浄を行い毎日ポリドントを使っている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	歯磨きができる利用者は自ら行っている。歯磨きができない方は職員が支援している。			○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	歯や義歯の状態が悪い時は訪問歯科を利用している。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	個々の排泄の 패턴を把握してトイレでの排泄を促している。				排泄チェックを行い、トイレでの自然排泄を基本として支援している。精神的な不安から紙パンツやおむつを使用している場合もあるが、排泄用品の適切な使用を目指し、時間帯や状態に合わせて使い分けをしながら支援している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	食欲や体調不良、気分不安定等の影響をおよぼすことを理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	一人ひとりの排泄をチェックして排泄パターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	本人の状況を把握して本人に合わせた声掛けをトイレでの排泄を促している。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	乳製品等を取ってもらい便秘が改善できない場合は医師から処方された薬を服薬してもらう。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	本人の排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	ミーティングで話し合い、その結果を本人と家族に報告をし了承をもらっている。使うものは時間帯により変えている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	本人に合った物を使い分けている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多いものや乳製品等を摂れるように工夫している。排泄が困難な方には医師から処方された薬を服薬している。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	◎	一週間に2~3回の入浴を日中に行っている。体調や本人が入りたくないと言った時は翌日に声掛けをして入浴している。	◎		△	概ね3日ごとを目安に入浴している。時間帯や長さ、希望の時間帯など、なるべく利用者の希望に配慮しているものの、職員の都合による場合もある。入浴回数や時間帯、利用者の希望や習慣を改めてアセスメントし、入浴が楽しみになる支援を検討して欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	湯舟に入れる方は長くならないように側で見守りくつろげるよう。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	着替えや洗身等できる事をしてもらい側で見守りしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	時間を変えて声掛けをしたり翌日に声掛けをしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にバイタルチェックをして入浴の不可を見極めている。入浴後に水分補給をもらい状態の確認をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	個々の睡眠パターンを把握している。	/	/	/	夜眠れるように日中の過ごし方に配慮しているが、概ね半数の利用者が医師と相談しながら服薬している。利用者の睡眠パターンを把握し、生活リズムを整えて、できるだけ薬剤に頼らない支援を期待したい。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	夜眠れない方について話し合い生活リズムを整える工夫をしている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	薬剤が必要な方は医師と相談しながら総合的な支援を行っている。	/	/	△	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	本人の状態を確認して居室で休んでもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	電話をかけた時は本人の代わりに番号を押し相手が出たことを確認して本人と変わっている。手紙やはがきが届いたら本人に渡している。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	家族から電話がかかったときには本人と話ができるように手助けをする支援をしている。。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族から電話をかけられる時間帯を聞きその時間に電話がかけられるように配慮している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	ハガキやに荷物が届いた時は本人に手渡し送り先にも連絡を入れている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人から電話をかけることについて家族に理解を得ている。家族からも本人に連絡をしてもらえるよう協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	利用者がお金を所持することや使うことの意味を職員は理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	日常的にはできていないが本人の必要な物を預り金の中から購入している。金額は少ないが本人が所持している場合もある。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	本人の状況により買い物に出られない場合は代行をしている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	◎	家族と相談をしながら一人ひとりの希望に応じた支援をしている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	預り金の使い方は家族と相談をして支援している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	月に一度出納帳のコピーを渡して領収書の必要な方には一緒に渡している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	本人と家族の状況に合わせた柔軟な支援をしている。	◎	/	○	医療機関の受診同行をはじめとした利用者や家族からの要望に応えられるよう柔軟に対応している。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	気軽に出入りできるように門は夜間以外開けている。建物の外壁にホームの名前を入れている。	◎	◎	◎	玄関まわりには花や木が植えられ、ゆったりと開放的で入りやすい雰囲気である。ほっと一息ついて体をやすめたり。靴の脱着がしやすいようにいすを置く配慮もある。	
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	季節に合わせてリビングの壁に飾り付けをしている。温度や湿度の調整と換気を行い心地よく過ごせるようにしている。	○	◎	○	共用空間に一歩足を踏み入れれば、暖かな調理の香りや、リビングに集う利用者の声が聞こえる。リビングには畳のスペースもあり、時には行事の舞台ともなる。不快な臭気もなく、清掃が行き届いている。季節を実感できるように作成した貼り絵や金魚を愛でたりしながら居心地よく過ごせるよう、環境に配慮している。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	すだれやカーテンを使い光の調節をしている。臭いが出ないように配慮し掃除はほぼ毎日している。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビングや廊下に季節の飾りをしている。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者同士の相性や落ち着ける場所を把握している。一人ひとりが落ち着ける場所で過ごしている。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	使用中は戸を閉めて他者から直接見えないようにしている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人や家族と相談をして使い慣れた物を置き心地よく過ごせるように工夫している。	◎	/	/	使い慣れたものや、好みの家具を自由に持ち込んでもらい、利用者はそれぞれに居心地よく過ごしている様子が伺えた。長年の職業経験を物語る書齋を再現した居室もある。	
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	自室やトイレには利用者の目線に合わせて名札を付けている。自室は本人の動き方に配慮し家具の位置を決めている。	/	/	/	○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱、失敗を招くような物品については家族と相談をして置き場所を工夫している。	/	/	/	居室の出入口には、間違えないように表札や名前のプレートをかけており、トイレや浴室など共有の場所を認識しやすいように大きな字で表示している。	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞等取り出してすぐに見られるようにしている。急須やコップは飲みたい時に飲めるようにポットの横に置いている。	/	/	/		
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	職員は鍵をかけることや利用者にもたらす影響を認識している。	◎	◎	◎		代表者及びすべての職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関やユニット出入口は施錠していない。センサーでチャイムが鳴るため、職員がお互いに気を付け合って、利用者を見守っている。他ユニットへの散歩が日課の利用者が、気軽に「おじゃまします」と入室している様子が見られた。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話合っている。	○	利用者の生命と安全を優先する為やむおえない場合は家族に説明をし同意を得ている。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中は玄関にカギをせず出入りが自由に行っている。出て行こうとされる時はその時の状況により声を掛けたり少し離れた場所から見守りしている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前入居後に家族から既往歴や現病を聞き把握に努めている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	本人の言葉や行動、身体状態の変化や異常を生活記録に記載し送りノートにも記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	いつもと違う状態があればホームの看護師に報告をしてかかりつけ医にいつでも相談ができるようにしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	入居前から受診しているかかりつけ医へ継続し受診をしている。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人の状態により家族と相談して適切な医療を受けられるように支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	受診日や受診の結果を家族に報告し情報を共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院時には本人に関する情報提供を行っている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院へ見舞いに行き病院関係者に話を聞き状況を確認している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	受診時に本人の状況を詳しく報告している。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日常の心身状況を把握し変化や気付いたことを看護師に報告し相談している。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	日中は看護師が勤務をしている。主治医の松岡Drと24時間連絡が取れるようにしている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタルチェックを行い健康状態を確認している。変化があれば看護師に報告し早期に治療を受けられるように努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬の説明書をファイルにとじて薬の変更があった場合は送りノートに記入している。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	一人ひとりの薬袋を作り一日分を用意している。用意した薬の確認と服薬前、服薬後に確認をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬の変更時や副作用に気をつけて本人の体調の変化に注意をしている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態がいつもと違う時は生活記録に記載し主治医や看護師に報告している。また家族にも報告している。				

愛媛県グループホームたいさんじ

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に終末期の過ごし方について事業所でできることを説明し意向を聞いている。	/	/	/	利用者や家族からの要望も強く、看取り支援に積極的に取り組んでいる。看護師資格を有する職員もおり、看取り経験を重ねたベテラン職員もいて安心感が持てる。事業所だけでなく、家族と医療機関、関係者がしっかり情報を共有して、連携しながら利用者の終末期の支援を行っている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	本人の状態に変化があればその都度家族に意向を確認している。家族・看護師・医師・管理者で話し合い方針を共有している。	○		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	その時々職員の思いや力量を把握して事業所でできる支援を見極めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	本人の状態に変化があればその都度家族に説明をし対応方針について理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	家族や医療関係者、主治医と連携を図りながら支援していく体制を整え今後の変化に備え対応できるようにしている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族間の事情を考慮し事業所でできることを支援している。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	一人ひとりのバイタルチェックを行い、本人の様子や体調の変化があれば主治医に報告をし早期発見に努めている。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症が発生した場合に速やかに対応できるように体制を整えている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	地域の感染症発生状況等を主治医やかかりつけ医、包括支援センターから最新情報を入手している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	主治医からの情報収集や包括支援センターから情報を入手して対応している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、発熱や下痢の症状がある方の面会をお断りしている。また二階の入口に来訪者が使えるマスクを置いている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	本人の生活状況を家族に報告して面会や外出、病院への付き添い等、家族と一緒に過ごせる時間ができるように協力をお願いしている。	/	/	/	外食会や、季節の行事など、家族が気兼ねなく参加できる機会を作っている。来訪する機会が少ない家族には、近況連絡を電話で行い、利用者の暮らしぶりを伝えている。運営上の事柄は運営推進会議で報告しているが、職員の異動については報告をしていない。利用者や家族にとって職員との関わりは重要なことであるため、異動時の伝え方も検討して欲しい。家族が気がかりなことを相談しやすいように、来訪時には職員から積極的に声をかけ、定期的な電話連絡も行っている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族が気軽に訪れ面会や外出ができるように環境づくりをしている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	◎	事業所での活動に参加できるように早期に報告をしている。家族会やクリスマス・忘年会等の行事に参加をしてくれている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	家族の来訪時や電話で、本人の状態や日常生活状況を報告している。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	本人の日常生活状況や状態を把握して家族に報告をしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人と家族との関係の理解に努めている。面会時には声を掛けるようにしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得ようとしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	行事ごとや本人の出来事等、その都度家族に報告をしている。家族の理解や協力を得ようとしている。	x	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	家族会やクリスマス・忘年会等ホームで行い家族同士の交流が図られるようにしている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	本人の状況を把握してリスクについて家族に説明をしている。同意書が必要な場合はもらっている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	家族の面会時に声掛けをして本人の現状報告をし定期的に報告もしている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時や契約の内容の変更時には説明を行い理解と納得を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	入居時に具体的な説明をしている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金改定時には文章と口頭にて内容を説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の人には事業所の目的や役割を説明している。		◎		公民館活動が熱心な地域であり、公民館長から地域行事のお誘いを受けている。以前は数名の利用者が参加していたが、最近では重度化や高齢化のため公民館2階にある会場まで足を運ぶなくなり、現在はほとんど参加できていない。近隣の畑で収穫した野菜を差し入れてくれる地域住民もいるが、利用者が地域と関わりが持たず課題に感じている。今後は利用者のみならず、職員も含めて無理のない範囲からでも地域行事などに参加し、地域住民との関係を深め深めていくことが望ましい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	日常的な挨拶をして地域の人との関係を深められるよう努めている。		×	×	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	支援をしてくれる地域の人たちはあまりいない。				
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	地域の方の来訪はないが近所の方から果物等をいただいている。				
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	隣近所方と挨拶等をして日常的なおつきあいをしている。				
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	×	住民やボランティア等の働きかけはあまり行っていない。				
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域資源を把握し安全に暮らしができるように支援している。				
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	公民館に出かける事はあるが関係性を深める働きかけは行っていない。				
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	地域の方たちは1名から3名参加してくれている。利用者は体調の良い方に参加してもらっている。	×		×	運営推進会議に家族の参加がないため、参加してもらうように日程調整など工夫していくことが望まれる。会議では、利用者やサービスの状況、評価の取組み状況を報告している。事業所は、参加者と意見交換できる貴重な場と感じている一方で、地域住民の理解が進んでいないとも感じているため、事業所や認知症ケア、利用者の生活について理解を深めてもらうための工夫を重ねて欲しい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	自己評価・外部評価の内容や目標達成計画と取り組み状況を報告している。			○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	事業所の取り組みを報告し参加者に意見をもらいサービス向上に活かせるよう努力している。状況や結果等について報告している。		×	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマの内容により職員を増やしたり日程や時間帯を配慮し工夫している。			○	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	議事録はいつでも閲覧できるようにホーム内に掲示している。				

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	日々の実践が理念に基づいたものになるよう取り組み努力している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	わかりやすい言葉で作成し2階入口に掲示している。	○	×	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握してそのスキルに応じた研修に参加できるように支援している。	/	/	/	代表者は職員が勉強会や研修に参加する機会を提供して、働きながら学べる環境を整備をしている。代表者はほぼ毎日事業所に立ち寄り、職員と職場の状況を把握して働きやすい環境づくりに努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	管理者は職員の課題に対して一緒に考える機会を作っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は職員の勤務状況を把握し職場環境や条件の整備に努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	事業所連絡会や地域内の施設と交流の機会がある。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	休憩時間の確保や職員の配置等を工夫している。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	高齢者虐待について研修を行い学んでいる。虐待や不適切なケアとはどのような行為かを理解している。	/	/	/	虐待や不適切なケアについて勉強会で学んでいるが、利用者に対する言葉遣いに少し問題を感じる職員もいるため、管理者は課題に感じている。不適切なケアを発見した時の手順などは、職員全員が認識し業務に励んでいる。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々のケアについてミーティングで話し合っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待や不適切なケアがないか注意を払い発見した場合の対応や手順を知っている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の疲労やストレスがケアに影響していないか注意を払い点検している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員は身体拘束の意味や内容を理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束についてミーティングで話し合う機会を作っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束について事業所の方針を家族に説明し理解を得ている。	/	/	/	

愛媛県グループホームたいさんじ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	研修で学ぶ機会がある。具体的な内容については理解できていない職員もいる。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	情報提供や相談にのる等の支援は行っていない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	包括支援センターとの連携体制は築いている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応マニュアルを作成して職員に周知している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	研修等で学ぶ機会はあるが定期的な訓練は行っていない。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故報告書やヒヤリハットにまとめミーティング等で職員と話し合い再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について話し合い事故防止に取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情対応のマニュアルは作成しているが理解できていない職員は少ない。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情は特にないが問い合わせがあった場合は手順に従って対応する。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合は速やかに対応し納得できるよう今後の改善策について説明をしている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	普段の何気ない会話や介助中に意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。	/	/	○	利用者からは、日常生活の会話の中で要望を聞いている。家族からは、来訪時や電話連絡で要望を伺い、言いにくいことも話してくれていると感じている。法人の方針により居室にはテレビを置かないことになっているが、置かせてほしいという家族の意見があり、今後の検討課題となっている。管理者は職員とコミュニケーションを積極的に取っており、職員は気軽に相談できると感じている。管理者は職員と業務を共にしながら、利用者本位の支援について検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会や連絡時に家族の意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。	/	◎	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時に苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を行っているが今のところ要望がないので行っていない。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	ほぼ毎日GHへ来ている。職員と話し意見を聞く機会をつくっている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	職員の意見や提案を聴く機会をつくっている。	/	/	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価の実施を年一回職員全員で取り組んでいる。				運営推進会議に参加する家族が少なく、地域住民もサービス評価についての理解が進んでないと思われるため、サービス評価について理解が得られるように説明が必要である。また、評価を踏まえて継続したモニターとしての役割が発揮できるよう、今後の取組みに期待したい。	
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を通してケアを見直す機会として活かしている。					
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	目標達成計画を作成し達成に向けて事業所で取り組んでいる。					
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議や家族会で報告を行っている。	×	△	×		
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	運営推進会議やミーティングで報告をし確認している。					
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	それぞれ災害別にマニュアルを作成している。				事業所周辺地域は水害を一番警戒しているが、地域住民と連携した合同訓練は行っておらず、家族の災害に対する不安もあるため、合同訓練の開催や関係機関や近隣住民と話し合いの機会を持つことで協力・支援体制を確保して欲しい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	回数は少ないが職員の人数の少ない夜間を想定し訓練を計画して行っている。					
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	×	消火設備は定期的に業者が点検をして避難経路は確認をしている。非常用食料・備品・物品類の定期的な点検が行えるように努力する。					
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	×	事業所内の訓練はしているが他の事業所と合同訓練はしていない。		△	○		△
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	×	地域の災害対策に参加できていない。					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	情報発信や啓発活動はできていない。				これまで地域住民への相談支援の経験はなく、地域活動も行えていない。公民館からの依頼で事業所で行っているレクリエーションを地域の高齢者を対象に行う予定であるため、今後少しずつ地域との距離を縮めていくことに期待したい。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	×	相談支援は行っていない。			×		×
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	事業所は解放していない。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	×	実習の受け入れはしていない。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	×	地域活動への参加はできていない。					△